

題材名 スメタナからのメッセージ (連作交響詩「我が祖国」より「ブルタバ(モルダウ)」)

令和4年1月27日(木) 第3学年 14名

1 題材目標と題材について

〈題材目標〉

既習事項を活用して楽曲を知覚・感受し、歴史的背景と関わらせながら作曲者の思いを感じ取り、音楽のよさや美しさについて自分の言葉で説明できる。

〈題材について〉

本題材では、音楽の特徴から生み出される曲想と情景との関わりや、作品の歴史的背景を理解し、作曲者が曲に込めた思いを感じ取って鑑賞することを目標とする。標題(場面や情景)のイメージが音色、速度、旋律、強弱などと深く結びついていることを知り、風景面を見るような音楽の中に、作曲者の祖国への想いが描かれていることを学ばせたい。

【小学校音楽との関連(第5学年及び第6学年)】

モーツァルト作曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」(音の重なり)

ホルスト作曲 組曲「惑星」より「木星」(オーケストラの音色)

ブラームス作曲「ハンガリー舞曲 第5番」(曲想の変化)

【中学校での既習事項】

ヴィヴァルディ作曲「四季」より「春」(弦楽器の音色、音楽の特徴と曲想との関わり)

シューベルト作曲「魔王」(音楽の特徴と曲想との関わり)

ベートーヴェン作曲 交響曲第5番 ハ短調(オーケストラの音色、作曲者との関わり)

ムソルグスキー作曲 組曲「展覧会の絵」(音楽の特徴と曲想、作曲者との関わり)

〈本題材で育成しようとする資質・能力〉

知識活用力 思考力

〈題材を貫く問い〉

○作曲者の思いが、音楽でどのように表現されているだろうか。

2 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	【知】曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりについて理解している。	【思】音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。 《思考スキル》 関係づける、構造化する	【態】音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 本時の目標 【本時 3/4】

歴史的背景を踏まえ、作曲家の思いが音楽でどのように表現されているか、音楽の特徴を根拠に解釈できる。

4 生徒の実態

本学級の生徒は、音楽の学習に対して意欲的であり、楽曲の特徴を聴き取ったり、曲想を感じ取ったりすることに熱心に取り組んでいる。3年生になってからは、楽曲にとどまらず、その歴史的背景を踏まえながら鑑賞する学習を展開している。知識の習得は申し分ないが、得た情報をもとに解釈し、作曲者の思いや音楽が持つ役割を感じ取ることにはまだ課題がある。本題材では、楽曲分析に必要な【多面的に見る】力、【比較する】力、音楽の特徴と曲想を【関係づける】力をもとに、歴史的背景という新たな視点も加味しながら【構造化】して、作曲者の思いがどのように表現されているのかを説明させたい。

5 本時の展開

	<p>学習活動</p> <p>◎発問 ●中心発問 ・予想される生徒の反応</p>	<p>○留意点</p> <p>※個への手立て・支援</p> <p>評価</p>
<p>課題設定</p>	<p>習得確認</p> <p>1 既習事項を確認する。</p> <p>◎標題音楽とは何か。</p> <p>◎「ブルタバを表す旋律」と「幅広く流れるブルタバ」の音楽的特徴の違いは何であったか。</p> <p>課題設定</p> <p>2 「我が祖国」が作曲された当時のチェコ情勢の概要を載せた資料を読み、理解する。</p> <p>3 課題を設定する。</p> <p>◎なぜ、毎年チェコで開催される「プラハの春音楽祭」で、国を象徴する音楽としてオープニングで演奏されているのだろうか。</p> <p>●「ブルタバ (モルダウ)」を通して、作曲者が伝えたいことが、音楽でどのように表現されているのだろうか。</p> <p>本時の目標：歴史的背景から、作曲者の思いが音楽でどのように表現されているか解釈できる。</p>	<p>○今までのワークシートを見ながら確認する。</p> <p>○映像の冒頭を流し、雰囲気をつかえさせる。</p>
<p>学び合い</p>	<p>個人思考</p> <p>4 思考スキルを確認する。【関係づける】【構造化する】</p> <p>5 これまでの学習を生かし、作曲者の思いが音楽でどのように表現されているか解釈する。</p> <p>◎標題A～G、「ブルタバを表す旋律」から1つ選び、作曲者が込めた思いを、聴き取ったこと(かたち)や感じ取ったこと(なかみ)、歴史的背景を基に解釈してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ブルタバを表す旋律」が短調で伸びやかな旋律であるのは、川の流れを雄大に表すとともに、オーストリアからの圧政に対する悲しみを伝えているのではないだろうか。 ・「聖ヨハネの急流」では、打楽器が多用されており、力強さを感じるが、同時にそれは圧政に対する怒りを込めているのではないだろうか。 ・「幅広く流れるブルタバ」では長調になり、速くなっていることから、川幅が広がって壮大な景色が止めどなく広がっていると同時に、チェコの未来に向けて前進していこうとする姿勢があらわれているのではないだろうか。 <p>集団思考</p> <p>6 同じ標題を選択した人同士でペア、あるいはグループになり、シンキングツールをもとに自分の意見を説明し合い、1つにまとめる。</p> <p>全体思考</p> <p>7 他のグループ(ペア)の意見の説明を、比較しながら聞く。</p> <p>本時のまとめ</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>本時のまとめ：作曲者は音楽を通して情景を表現しているだけでなく、祖国を愛する気持ちや圧政への怒りを込め、チェコの人々に母国の平和を訴えようとした。</p>	<p>○使用すると予想されるシンキングツール【ステップチャート】【ピラミッドチャート】【マトリクス表】</p> <p>○Classroomに標題ごとの音源を掲載し、それぞれ聴くことができるようにする。</p> <p>○ジャムボードを活用し、各自シンキングツールを改変しながら考えさせる。</p> <p>○作曲者の思いが、音楽にどのように表れているのか、音楽を形づくる要素(音色、速度、旋律、強弱)の特徴及びそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を根拠にさせる。</p> <p>※机間指導を行う。</p> <p>評価</p> <p>「ブルタバ (モルダウ)」の解釈について、音楽的特徴を根拠としながら説明している。「思考力」(シンキングツールの記述・発言)</p>
<p>振り返り</p>	<p>振り返り</p> <p>9 本時の学習の振り返りを振り返りシートに記入する。</p>	